

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	おおさかふりつみくにがおかこうとうがっこう				②所在都道府県	大阪府	
26～30	①学校名	大阪府立三国丘高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 521名 文理学科 477名 計 998名 普 1年 201名、2年 159名、3年 161名 文理 1年 160名、2年 159名、3年 158名		
普通科	180	70	30		280			
文理学科								
⑥研究開発構想名	「持続可能な地域開発に貢献できるリーダー育成プログラム」							
⑦研究開発の概要	TOPIC STUDY レベル1では最新の知見を獲得し、TOPIC STUDY レベル2では、「持続可能な地域開発」を統一テーマに3つの課題研究において action plan を作成、提言する。フィールドワークを行い、多様性を理解し、高いメンタリティを持って問題解決策を遂行する、グローバル・リーダーとしての資質を身につける。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標						
		<p><目的> 地球規模での持続可能な社会の構築に貢献する、「創造的課題解決能力」を持つグローバル・リーダーの育成</p> <p><目標> 本構想において実現する成果目標（アウトカム）とグローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）を設定する。</p>						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説						
		<p><現状分析> 学校設定科目「Creative Solutions I II」や「CS 探究」では、アジアの国々を中心とした国際問題等をテーマとし課題研究を行っているが、適切な専門家等のアドバイスを受けて深化させるにはいたっていない。また、教室内での研究であり、実態の把握が難しく不完全な現状分析に終わっている。</p> <p><仮説> 以下の仮説が充足されれば「創造的課題解決能力」を持つグローバル人材を育成できるという仮説を設定する。</p>						
		<p>①国際社会が直面している緊急の課題をテーマとして設定することで、世界に貢献する有益な action plan を作成することができる。</p> <p>②専門性を持つ大学教員等による指導によって、信頼できる情報をもとに比較分析を行い有益な action plan を作成することができる。</p> <p>③しかるべき組織・学校と連携できる専門家のもとで国内外のフィールドワークを行うことにより、グローバルな視点から見ても有益な action plan を作成することができる。</p>						
		(3) 成果の普及（平成27年度）						
		<p>①課題研究発表 米国ポートランド市およびメリルハースト大学での課題研究発表、フィリピンでの学校交流先や NPO での課題研究発表、京都大学での課題研究発表、関西学院大学 research fair への参加、本校における学校交流での課題研究発表、その他各種課題研究発表会における課題研究発表</p> <p>②SGU との接続の推進</p> <p>③action plan 提言のための、国際機関・各国政府機関との連携の推進</p> <p>④HP（日本語版・英語版）の更なる充実</p> <p>⑤教材ライブラリー、SGH 紹介ビデオの作成</p> <p>⑥授業公開 課題研究授業を SGH 指定校を中心とした全国の高校に公開する。</p>						

<p style="text-align: center;">⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p>(1) 課題研究内容 TOPIC STUDY レベル 1 A. 人材育成研究分野<1>「インターネットの利用で世界規模で変革する教育の可能性（日本の過疎地及び新興国を対象とする）」 <2>「Sustainable Business and Leadership」リルハースト大学 B. 最新ビジネスモデル研究分野 「IMEC 型ビジネスモデルを学ぶ～NPO の新しい形はなぜ成功したのか～（地域開発）」 C. 国際支援研究分野 「東南アジアにおける国連開発計画（UNDP）、アジア開発銀行（ADB）の支援を学ぶ」 TOPIC STUDY レベル 2 A. 「BOP ビジネスを用いた地域開発」 B. 「人間活動と自然環境の調和ある地域開発（企業と地域社会が共存できる持続的な環境・地域開発）」 C. 「Sustainable Business and the Environment」 (2) 実施方法・検証評価 <実施方法> 本校の SGH の取り組みは、SGH core program と SGH open program に分けて実施する。 ①【SGH core program】 すべてのカリキュラムを講義、討議、グループワーク、課題研究、課題研究発表等の活動を通して実施する。 学校設定科目「Creative Solutions I II」（文理学科・普通科選択生徒対象）や「CS 探究」（文理学科文科（人文社会国際系）2 年生対象）の授業または大学において実施。春季休業中に米国ポートランド市でフィールドワークを実施。 ②【SGH open program】 カリキュラムの一部を希望者等対象に実施。 SGH 三丘セミナー、SGH 特別講義、メリルハースト大学 open program、学校設定科目「国際情報」の時間に実施。 <検証評価> 国内外での課題研究発表におけるアンケート等を利用した本校関係者・本校関係者以外の評価、学校交流先等の連携先へのアンケート、生徒・保護者・教員へのアンケート、パフォーマンス評価、SGH 運営指導委員会・学校協議会による指導・助言 (3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 なし (2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 ①グローバル・ツアー Australia Study Tour（夏期休業中 1 5 日間）、Culture and Sports Tour（春期休業中 1 0 日間） ②中台韓を中心とした学校交流の受入れ ③海外進学講座 ④Super English Teacher 制度による TOEFL コース（平成 2 7 年度より実施予定） (4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
<p style="text-align: center;">⑨ そ の 他 特 記 事 項</p>	

ふりがな	おおさかふりつみくにがおかこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	大阪府立三国丘高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							60人
	SGH対象生徒以外:		- 人	56 人				70人
目標設定の考え方: リーダーに必要な「社会貢献」の基本理念をボランティア活動を通じて体得する								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							40人
	SGH対象生徒以外:		38人	68人				40人
目標設定の考え方: 各種課題研究ツアー及び語学研修ツアーに参加することにより、国際性を養成し異文化理解を促進する								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							100%
	SGH対象生徒以外:		12.50%	12.50%				50%
目標設定の考え方: SGHへの取り組みを通し、海外へ出る意欲を持つ生徒を増加させ、リーダーとしての広い視野を持つ								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							5人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人				1人
目標設定の考え方: 本校課題に関する大会に挑戦することにより、他校の取り組みを知り、更に知識を深める								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							25%
	SGH対象生徒以外:		10%	10%				12%
目標設定の考え方: 英語をツールとして運用できるよう、各種検定に挑戦し、英語の4技能の向上に努める								
(その他本構想における取組の達成目標) 東アジアに関心を持つリーダーの割合								
f	SGH対象生徒:							90%
	SGH対象生徒以外:		-	-				30%
目標設定の考え方: 日本との関わり合いが強い東南アジアに知見を持ち、国際機関と活動に関心を持つリーダーを育てる								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:							80%
	SGH対象生徒以外:		61%	57.8%				65%
目標設定の考え方: 国際化を促進する大学及び難関国公立・私立大学への進学者を増やす								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:							5人
	SGH対象生徒以外:		0人	1人				2人
目標設定の考え方: 海外大学への直接進学増加により、課題研究の成果を海外での仕事に役立てる								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							90%
	SGH対象生徒以外:		-	-				30%
目標設定の考え方: 課題研究のテーマはライフワークに関わるものであり、大学進学後研究を継続する生徒を増やす								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:							60人
	SGH対象生徒以外:		-	-				40人
目標設定の考え方: 大学での留学により海外経験を積み、課題研究の成果を生かし、今後のキャリアアップにつなげる								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	6人	7人						30人
目標設定の考え方: 海外への研修に参加により、アジアの状況、先進国の知見を直接知り、課題研究を深化させる								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	52人	52人						80人
目標設定の考え方: 自国の課題の現状を国内フィールドワークや研修に参加することにより知る。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	1校	1校						10校
目標設定の考え方: 先進国の知見をツアーとoutreachの組み合わせにより深め、高校交流で同世代の考え方を知る								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	132人	82人						200人
各課題での専門家より講義、助言をもらうことにより、最新の情報、ノウハウを得、研究を深化させる								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	2人	2人						50人
目標設定の考え方: 現職または元の国際機関経験者、企業の方から現在の社会の最先端で起きていることを学び、研究につなげる								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人						20人
目標設定の考え方: 公益性の高い大会に参加することにより、現在研究が行われている課題を知り、視野を広げる								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	96人	82人						150人
目標設定の考え方: 海外からの訪問希望校及び留学生を受け入れ、相互交流の一層を深め、多文化共生を学ぶ								
先進校としての研究発表回数								
h	3回	3回						5回
目標設定の考え方: 校内発表を経て、更に先進校としての発表を行うことで、経験を積み高いレベルでの発表を目指す								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: 海外とのネットワークを通じ、海外にも広報活動を行うため、英語によるホームページを作成する								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	958	960	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							